

第5次真庭市男女共同参画基本計画（あい・プラン）について

【計画の趣旨等】

真庭市でも、社会的な性差により、生きづらさを感じながら生活している人、潜在能力を伸ばすことができない人がいます。少子化や人口減少も大きな課題です。

民話「大きなかぶ」の「仲間で力を合わせる」「土を耕し、石をどけ、抜けやすくする」「次に育てるものをともに考える」「種をまき、育てる」という話を通じて、性差に関係なく、誰もが個人として尊重され、自分らしく生きられる地域社会を市民と一緒に考え、実現するために本計画を策定しました。ロシア民話「おおきなかぶ」を通じて、課題と解決策を親しみやすく表現し、市民が興味を持ちやすい計画としました。

「かぶ」…すでに社会の中にある「だれもが自分らしく生きることができる地域」を象徴しています。

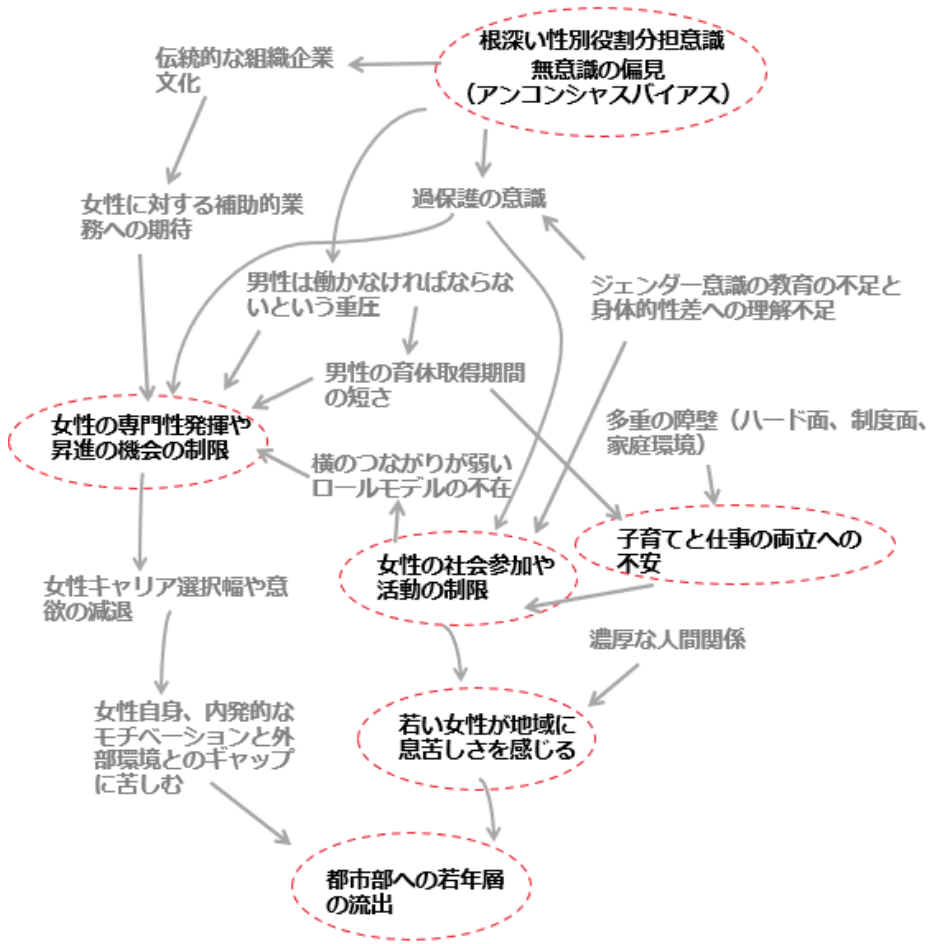
「土と石」…偏見や慣習、制度などのために力を発揮しにくくしている現実を表すと同時に、地域が育んできた豊かな土台でもあります。

「仲間」…世代や立場を超えた協力によって、小さな力も含めてつながり合うことで大きな課題を動かします。

計画書本体 12P（現行 28P）

- 基本理念
  - ・個人の尊重・・・一人ひとりの人権と尊厳を大切に
  - ・共生・・・互いに支え合い、安心して暮らす
  - ・自分らしく・・・性差にとらわれず、のびのびと生きる
- 計画期間  
令和8(2026)年度～令和12(2030)年度

●現状と課題（かぶがぬけない理由）



●基本目標・目指す姿（みんなでかぶを食べる）

基本目標：「わたらしく、あなたらしく」を応援しあう「まち」～みんなで、大きなかぶを抜こう～  
性差ではなく「一人ひとりをきちんと見て、認め、応援し合える地域」を目指す

● 重点施策（かぶを抜く手立て）→課題とめざす姿から導かれる各分野についての方角性について記載

重点施策	課題・価値	施策
世代や立場を超えた仲間づくり	○真庭市全体で推進する姿勢が弱い	真庭市全体での推進体制の構築
	○行政、議会、教育、地域、経済等の各分野での連携した取組が少ない	
	○企業や組織以外での女性の横のつながりが少ない	市民や団体のつながりを作る
	○社会的性差に取り組む団体が少ない	団体の育成や支援を行う
	○組織や地域、学校等にロールモデルを見つけづらい	ロールモデル事業の啓発
次のかぶを育てる		市民や団体のつながりを作る
		ロールモデルの育成
	○社会的性差について話す機会が少ない	市民や団体のつながりを作る
	男女共同参画施策への参画機会づくり	社会的性差が解消された地域を考える機会づくり
	次世代の育成	次世代を担うリーダーの育成

重点施策	課題・価値	施策
固い土を耕す	○家庭・地域・職場などにある固定的役割分担意識	固定的役割分担意識やアンコンシャスバイアスの解消
	○固定的役割分担意識を起点とするアンコンシャスバイアスがある	男女共同参画施策の啓発
	○身体的性差についての誤解による不必要な配慮がある	身体的性差を学ぶ機会づくり
	○性差に基づく自己肯定感の低さ・自信の低さ	顕在化している生きづらさの解消
	○濃厚な人間関係からくる息苦しさ	市民や団体のつながりを作る
	○地域で息苦しさがある	社会的性差について学ぶ機会づくり
	○男性にもある生きづらさ	男性の生きづらさに対する支援
	○ジェンダーに関する知る・学ぶ機会が少ない	社会的性差について学ぶ機会づくり
	○社会的性差に対しての世代間の意識の違いがある	社会的性差について学ぶ機会づくり
大きなかぶを育てる栄養	多様な価値観やライフスタイルに対する理解の醸成 時代の進展に合わせた共生社会の実現のための意識醸成	多様な価値観やライフスタイルを知る機会づくり

重点施策	課題・価値	施策
土の中の石をなくす	○家庭内の暴力（DV）	配偶者等からの暴力の根絶
	○意思決定の場への性差の偏り	積極的な性差の偏りの是正
	○キャリア形成の不明確さ	賃金格差や採用格差などの社会構造化している社会的性差の解消
	○子育て・介護、地域と家庭の両立の困難さ	賃金格差や採用格差などの社会構造化している社会的性差の解消
	○職種や働き方の性差による偏り	社会構造の見える化
		賃金格差や採用格差などの社会構造化している社会的性差の解消

● 評価と見直し（収穫を分かち合う）→さらなる推進を目指す手立てを提示

Check：評価	Act：改善	Plan：計画	Do：実行
仲間や畑の状態を確かめる	仲間の呼びかけ方、集まり方を相談する	仲間の呼びかけ方、集まり方	仲間を呼びかけ、力を出し合う。
かぶの育ち具合をみる	畑をたがやす道具や方法を考える	畑のたがやし方、栄養の入れ方	畑をたがやす、栄養を入れる
		石を取り除く方法	石を取り除く

● 成果指標

《仲間》	ネットワーク提案事業実施数	2件/年
	ネットワーク参加者数	のべ200人/年
《土》	地域幸福度（Well-Being）指標	女性活躍 50
	アンケート 男性の家事時間	
《石》	審議会委員女性登用率	45%

● 推進体制（かぶをぬき、育てる役割分担）→市民、団体・事業所、行政の役割分担

多様な立場の協力体制

一人ひとり、それぞれの立場で声をかけあい、話し、応援し合う関係

《市民》

家庭、職場、学校、地域でも仲間と一緒に“性別で決めつけていないか”という対話や学びから物語を前に進める主人公

《団体・事業所》

自分らしく能力を活かせる環境を、意思決定や参画の仕組みを見直し、土壌全体の豊かさを高める担い手

《市の役割》

市民、団体、事業者、と手を取り合い、仲間づくりから土壌づくりまでを計画的に進める役割

【経緯等】

令和6年7月	男女共同参画推進委員会	協議
令和6年9月	市民アンケート実施（994人）	
令和7年3月	男女共同参画推進委員会	協議
令和7年8月	市民インタビュー実施（60人）	9月まで
	市民ワークショップ	2回実施（24人）
令和7年10月11月	市職員対象勉強会2回実施（49人）	
令和7年10月	男女共同参画推進委員会	協議
令和7年11月	理事者会	協議
令和7年12月	男女共同参画推進委員会	協議
令和8年1月	男女共同参画推進委員会	諮問
令和8年1月～2月	パブリックコメント実施	予定
（文教厚生常任委員会報告、6月、7月、9月、11月、12月）		